

先生に模擬国連にでてみないかと言われて、どういうものかもわからずにとりあえずやりますと返事をした時は、模擬国連がこんなに大変なものだとは思っていませんでした。大会本番だけでなく事前準備からとても苦労しました。普段学校生活を送っている中では、自分から情報を探しに行くといくという機会はあまりありません。しかし、模擬国連においては自分で調べ、できるだけ多くの情報を集めてそれを自分の中で整理することがとても大事です。書類選考の課題に取り組む段階から、たくさんの資料を読み整理することは困難でした。特に、今回の大会のテーマである「死刑モラトリアム」は高校生である私にとっては決して身近な問題ではありませんでした。各国の様々な歴史的、宗教的、文化的背景を理解した上で死刑と人権の関係をどう捉えるべきか考えるのはほんとうに難しかったです。今大会で私たちのチームはイラクとして参加しましたが、イラクは死刑を存置している国で、国際的には少数派です。だから会議が始まるまではどういったグルーピングで話し合いが進むのか、最終的に存置国でDR(1つの宣言文書)を出せるのかとても心配でした。しかし会議が始まるとそんな心配もする暇もないくらいどんどん話し合いが進んでいきました。はじめは混乱しましたが、しだいに慣れて自分が今何をすべきか冷静に判断できるようになり、私は主に中立的な立場をとる国との交渉を行いました。その時は、事前に調べておいた他国の経済状況や、死刑執行状況などがとても役に立ちました。

会議中に学んだことはたくさんあります。私は交渉という役割でしたが、グループをまとめる人や、他にも会議全体の状況を把握して各国に伝える人、文書を作成する人などそれぞれが自分の役割をしっかりと持つことで会議が成り立っていて、私は日常生活においても常に自分ができていることを考え、自分の役割を果たすことが大切だと思いました。また会議では、ペアでの役割分担や意見共有をしっかりとすることが重要だと気づきましたが、私達ペアは事前準備で自国のスタンスを明確にし、共有できていたので会議中にペア間で意見が食い違うことはなく協力して会議に臨むことができました。その点で、大森さんとペアを組んだことは本当に良かったと思います。

練習会の時ははじめての模擬国連で緊張していたこともあり、とても長く感じましたが、東京での大会本番は本当に短く感じました。他の高校生ともたくさん話すことができ、すごくたのしかったです。今回の模擬国連を通して1番良かったことは、自分の世界が広がったことです。今まで知らなかったことをどんどん知っていく喜びを味わい、知識が増えることで自分の自信にもつながりました。非常にレベルの高いこの会議に参加出来たことを本当に誇りに思います。この貴重な経験をこれからの人生に繋げていきたいです。

